令和4年大磯町議会

3月定例会一般質問（2月24日・25日）

質問議員	質問事項（1日目）	答弁者
<p>1 6番 二宮加寿子議員 （70分） 9:05～10:15</p>	<p>1. 豊かな自然環境と共生する快適なくらしやすいまちづくりについて 2030年に向けて国連が推進している持続可能な開発目標（SDGs）が始動されているが、地球温暖化の現象が気候変動にも影響が及んでいる。その緩和と適応に向けた取組みなど、生物多様性の減少など環境政策は喫緊の課題と思う。町では、環境基本条例の基本理念を総合的、計画的に実現していくために環境基本計画を策定し、環境の保全等の取組みを進めている。この計画は、令和4年度をもって計画期間が満了となり、新たな環境基本計画（第3次計画）を策定することとし、アンケートが実施された。 総合計画基本構想（2021～2030）の柱Ⅲ「快適なくらしやすいまちづくり」に「先人が遺した自然や歴史・文化との関わりを大切にし、住み続けることに楽しさや生きがい、充実した人生を実感できる快適なくらしの実現を図る」とあり、「身近な自然環境空間の形成」に「自然と調和した歴史、文化資源とともに高麗山や鷹取山などの豊かな山林や緑地、こゆるぎの浜などの美しい風景や貴重な生態系など遺された優れた自然環境の保全・再生に努める」とし、「また海岸や河川、里山などの人と自然とがふれあい楽しめる環境づくりを推進します」とあるが、具体的な取組みを伺う。 また、日本古来の植物を侵食してしまった外来種植物についての特定外来植物生態系被害防止外来種の取扱いは。</p> <p>2. 未来の子どもへの応援支援について 支援を必要とする妊産婦、子育て世帯、子どもを対象とした新たな家庭支援の推進と包括的な支援体制の整備における取組みを伺う。 （1）地域における子どもの居場所づくりについて ① 町の実施する放課後子ども教室の目的と運営体制は。 ② 放課後子ども教室と学童保育との違いは何か。 ③ コロナ禍における事業（放課後子ども教室と学童保育）の実施状況や新たな事業展開の検討は。 （2）養育支援訪問事業における町の実施する産後ケア事業の状況は。</p> <p>3. 子どもたちの教育機会の確保と拡充 誰もが自らの能力を引き出せるよう、大磯町の「教育ビジョン」に期待を寄せているが、今後の学習支援のあり方として進めていくGIGAスクールやコミュニティスクール、インクルーシブ教育は大切であると思う。 どのような体制で臨む行動計画となるのか。将来の展望も含めた包括的支援となるのか伺う。</p>	<p>町長</p> <p>町長</p> <p>町長 教育長</p>

<p>2 2 番 吉川 重雄議員 (90 分) 10 : 35 ~ 12 : 05</p>	<p>1. 町民の負託に応えた町政ができているのか 中崎町長が行っている町政運営の中で、 (1) 町長自身の選挙公約であった「中学校給食事業」が開始されてから2年たらずで、当事者の中学生に拒まれて頓挫したままになっている問題。 (2) 地域包括支援センターの設置責任主体である町が、社会福祉法人の大磯町社会福祉協議会と委託契約している地域包括支援センターの問題。 (3) 本年1月31日に突然町から情報提供された東海大学医学部附属大磯病院の事業終了の問題。 (1) ~ (3) の問題は、私たち町民にとっては、大変重要な問題である。これらの問題から中崎町長の行政運営は、町民の負託に応えた町政ができているのか。町長の見解を問う。</p>	<p>町 長</p>
<p>3 13 番 鈴木たまよ議員 (60 分) 13:05 ~ 14:05</p>	<p>1. 町は町民の信頼をどのように回復していくのか 行政の運営について、町民から不信の声がとても多く寄せられている。陳情審査や委員会で調査されるも、町民の声が受け入れられているのか、先の見えない不安から、行政に対して不信感や諦め感が大きくなっている。中でも、昨年3月末に地域包括支援センターの全職員が退職するという異常事態が発生した大磯町社会福祉協議会の問題や、昨年陳情が提出された大磯町立大磯幼稚園の民営化については、問題視している町民がとても多く、納得いくまでの情報提供や話し合いがないまま事業が進められていくことが、町民の町への不信感を増幅させていると、私は思う。 以下の2つの問題点について、今後、町はどのように町民の信頼を回復していくのか。どのように町民に歩み寄り、問題を解決し、責任を果たしていくのか。町の考えを問う。 (1) 大磯町社会福祉協議会の委託元としての監督・指導について (2) 大磯町立大磯幼稚園民営化について</p>	<p>町 長 教育長</p>
<p>4 3 番 石川 則男議員 (90 分) 14:25 ~ 15:55</p>	<p>1. 黒岩公民館の建て替えと地域会館の移管について 平成5年、黒岩公民館の土地を大磯町に寄附し、また平成4年以降12回も黒岩公民館の建て替え要望を大磯町に提出したにもかかわらず、今日まで実行されていない問題について、再度問うものである。 (1) 令和3年12月下旬、黒岩地区の方々と役場駐車場にてばったり会った。「黒岩公民館の建て替え」について、町と話し合いを行うとのことであったが、今後どのような課題があるのか。 (2) 「黒岩公民館建て替え」を進めるにあたっては、大磯町の全面的な応援が必要と思うが、町として全面的な応援をする考えか。 (3) 地域集会施設の役割を町はどう考えているか。また、地域会館を町としてどう活用する考えか。 (4) 100億円の予算を持っている町が、維持管理できないと判断した地域会館を数十万円から数百万円しか予算を持っていない町内会が、維持管理、建て替えができると町が考える根拠を問う。</p>	<p>町 長</p>

(4) 教育ビジョンの政策・浸透には、町民の理解・協力が不可欠と考えるが、今後どう進めていく考えか。

	<p>を目指すとしている。進行管理が必要ではないか。</p> <p>3. 5歳から11歳までの新型コロナワクチン接種等について</p> <p>国は、5歳から11歳への新型コロナウイルスワクチン接種を3月から開始すると発表した。オミクロン株による感染が拡大しており、ワクチン接種が受けられなかった子どもたちにも接種を受ける機会が与えられたわけである。次の点を質問する。</p> <p>(1) 大磯町での接種対象者数と接種スケジュールは。</p> <p>(2) 小児用ワクチンとのことだが、12歳以上のワクチンとの違いは何か。</p> <p>(3) 接種に際して注意すべきことは何か。</p>	町 長
<p>8</p> <p>1 番</p> <p>清田 文雄議員</p> <p>(40 分)</p> <p>15:00～15:40</p>	<p>1. 通学路の安全対策における現状と対策は</p> <p>昨年の千葉県八街市での痛ましい児童の事故を受け、町でも実施した通学路の合同点検やその対策については、先の二宮議員の一般質問でもあったが、国交省は昨年末に500億円の補正予算を計上し、通学路の安全対策に取り組むなど、今後、通学路の安全確保は、全国的にも更に重要な対策になると考える。</p> <p>そこで、町の対応について次の点について質問する。</p> <p>(1) 国の補正予算では、通学路の主な安全対策として、1. 歩車分離式信号の設置、2. 速度規制などの標識の設置、3. 横断歩道の整備、4. 歩道の設置や拡幅、5. ガードレールの設置等の対策が進められるとの事だが、町で昨年行った通学路交通安全プログラムによる、合同点検の結果では、どのような対策が必要で、その対策について、各関係部署とはどのような連携、調整を行っているか。</p> <p>また、連携、調整後の通学路の安全対策は、どのように行っているのか。</p> <p>(2) ハード対策への取組み以外に、通学路自体を変更するなど、ソフト面での安全対策の取組み状況についてはいかがか。</p>	町 長 教育長

8名18問

時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。